

地域活動実施報告書 (A)

令和 8年 1月16日

メンバー (所属) ○=代表者	○ 植木信一 (子ども学科) 事業分担者: 小池由佳 (子ども学科)、子ども学科学生2名 連携担当者: 新潟市こども未来部こども政策課企画管理グループ 連携担当者: 川邊素子 (岩室地域児童館)
--------------------	--

活動テーマ

児童館におけるこどもの意見形成支援モデル事業

活動の目的

児童館におけるこども (主に小学生) の意見形成支援を実施する。児童館を利用するこどもたちを対象に、子ども学科の学生および教員が、こどもの放課後の生活支援 (あそびの支援、学習支援) にかかわるなかで、こどもの意見・意向を聴取・反映・フィードバックする。実施場所は、新潟市と協議の結果、岩室地域児童館 (新潟市西蒲区) に設定した。児童館の運営にこどもの意見・意向を反映し、こどもの視点に立ったより利用しやすい居場所づくりを目指す。

事業結果は、「新潟市こども計画」に反映する。また、他施設の児童厚生員や放課後児童支援員に実績を共有し、こどもの意見形成支援のモデルケースとして活用する。

活動の内容

新潟市と新潟県立大学との包括連携協定に基づいて、「こどもの意見形成支援」事業を実施した。具体的には、こどもの意見形成支援の取り組みを進めている新潟市岩室地域児童館を対象に、こどもの意見聴取の取り組みや、こどもたちの主体的な動機にもとづく「こども会議」を開催した。当該児童館におけるこども会議のほか、出張児童館 (児童館のない地域へ出向くこと: 西川すずき公民館) においても、こども会議を開催することができた。児童厚生員 (児童館の職員) がコーディネータとして参加したほか、子ども学科の学生が補助スタッフとして参加した。

1	4月22日 (火)	11:15~11:45	オンライン	事前打ち合わせ	
2	5月13日 (火)	10:30~12:00	岩室地域児童館	現地打ち合わせ	
3	5月25日 (日)	10:30~13:30	岩室地域児童館	こども食堂へ参加	
4	6月6日 (金)	15:30~18:00	岩室地域児童館	児童館活動へ参加	
5	6月11日 (水)	15:00~17:00	岩室地域児童館	児童館活動へ参加	
6	6月25日 (水)	14:30~17:00	西川すずき公民館	出張児童館	こども会議
7	6月29日 (日)	10:30~13:30	岩室地域児童館	こども食堂へ参加	
8	7月16日 (水)	15:00~17:00	岩室地域児童館	児童館活動へ参加	こども会議
9	9月7日 (日)	15:00~17:00	岩室地域児童館	児童館活動へ参加	こども会議
10	9月10日 (水)	15:00~17:00	岩室地域児童館	こども会議	
11	9月24日 (水)	15:00~17:00	岩室地域児童館	こども会議の振り返り	
12	10月1日 (水)	15:00~17:00	岩室地域児童館	職員へのヒアリング	

本事業の成果を報告するために、11月28日 (金) に、本学にて、「こどもの権利とこどもの意見形成支援～児童館におけるこどもの意見形成支援モデル事業報告会～」を開催した。本学教職員・学生の他、こどもの支援や子育て支援等に携わる多くの一般の皆様からご参加いただいた。こどもの権利と、こどもの意見形成支援および児童館運営や自治体の施策にこどもの意見を反映するための「こどもの意見形成支援モデル事業」について報告があったのち、新潟市岩室地域児童館館長の川邊素子氏より、新

潟市岩室地域児童館で取り組んだ「こども会議」の実際と、こどもの意見形成支援の取り組みについてご報告をいただいた。補助スタッフとして本事業に参加した本学学生2名からも、取り組みを通じて学んだことや感じたことについて報告があった。

また、こどもたちから聴取した思いや意見へのフィードバックの取り組みとして、新潟市こども政策課の池田文明課長より、新潟市こども計画をはじめとする政策反映に関するコメントをいただくことができた。

なお、本報告会は、新潟県児童厚生員等基礎研修会「こどもの権利」としても共催され、県内の児童館職員のスキルアップの機会としても活用された。



新潟県立大学・新潟市 連携事業

# こどもの権利と こどもの意見形成支援

～児童館におけるこどもの意見形成支援モデル事業報告会～

こどもの権利とは、こどもが自らの意見や意向を表明できる権利のことであり、こどもが主体性を育み、コミュニケーション能力を身につけることにつながります。そのため、近年、こどもの意見形成を支援するとり組みが目立っています。報告会では、児童館におけるこども会議のとり組み事例を紹介しながら、こどもの権利について理解を深めます。なお、本報告会は、新潟県立大学と新潟市の連携事業の一環です。

**日時** 11月28日(金)  
10:45～11:45

**会場** 新潟県立大学  
 commons3号館 5202講義室

**講師** 植木信一 教授  
新潟県立大学 人間生活学部

川邊素子 氏  
新潟市岩室地域児童館 館長

**参加費 無料**

**お申込はこちら**  
<https://forms.gle/WZLPPuMroKRHZMLB8>

申込期限: 11月25日(火)  
 参加ご希望の方は、上記の申込みフォームより、期限までにお申し込みください。

会場へのアクセス: 新潟県立大学 新潟市岩室地域児童館 館長

お問合せ先: 新潟県立大学 地域連携推進センター TEL 025-368-8225 E-mail unpreco@unil.ac.jp

主催: 新潟県立大学 共催: 新潟市/新潟県児童館・児童クラブ連絡協議会/新潟県立こども自然王国



地域活動実施報告書 (A)

令和8年2月19日

メンバー（所属） ○=代表者	○ 国際地域学部 国際地域学科 関谷浩史
-------------------	-------------------------

活動テーマ

「ぼうさい国体 2025in 新潟」への出席  
—中学校と連携した避難訓練にむけた避難マニュアルの作成—

活動の目的

■ 活動の目的

1. 研究成果の社会還元と地域実装の深化

本活動の主な目的は、2020年よりJST（科学技術振興機構）の助成を受け実施してきた「コミュニティ防災人材育成システム」の研究成果を、地元開催となる「新潟市」において広く公開することにある。特に、経済の中心地「万代地区」をフィールドとした「リスクキャプチャー・チャレンジ」や、中学校と連携して策定した「避難マニュアル」の知見を地域住民や関連企業へ還元することで、実証研究のフェーズから地域社会への「実装・定着」のフェーズへと進展させ、災害に強い地域づくりへの機運を醸成する。



JST「コミュニティ防災人材育成システム」

2. 「コミュニティ防災人材ネットワーク」の構築と拡大

これまでの活動で築き上げた、万代コミュニティ協議会、新潟市、国土交通省北陸地方整備局、および地元企業との強固な産官学民連携を基盤とし、当該イベント「ぼうさい国体 2025in 新潟」及び研究事業を「地域間連携」のハブとして活用する。

全国から集まる自治体や研究機関とリスク情報を共有し、地域特有の課題を抱える組織同士の人的ネットワーク（コミュニティ防災人材ネットワーク）を形成することで、広域的な防災力の向上に寄与する。



ぼうさい国体 2025in 新潟

3. 社会的包摂の実現と本学のプレゼンス向上

本学が推進する防災教育活動は、子どもを介した家庭や学校を核とした「社会的包摂」に準ずる活動であり、その成果を内閣府主催のナショナルイベントで発信することは、学術的価値のみならず社会的意義も極めて高い。公立大学防災研究教育センター連携会議の一員として、他大学と歩調を合わせつつ独自の知見を提示することで、本学が地域防災のシンクタンクとして果たす役割を明確にし、そのプレゼンスを全国的に高めることを目的とする。

## 活動の内容

### ■事業計画

#### 1) 研究成果の整理：中学と連携した避難訓練にむけた避難マニュアルの作成

関谷研究室と大阪公立大学が連携し、今年度は地域住民が参加する形式で避難マニュアルを作成した。作成にあたっては宮浦中学校と協力して避難訓練を実施し、避難所の開設から避難所の開設・運営に至るまでの一連のプロセスを実地で確認した。これを受け、最初の取り組みとして、能登半島地震の際に混乱の一因となった避難所の開設問題、通称「ファーストミッションボックス」に連動した避難所マニュアルを作成することが地域住民間で合意された。



宮浦中学校での防災訓練（開設）



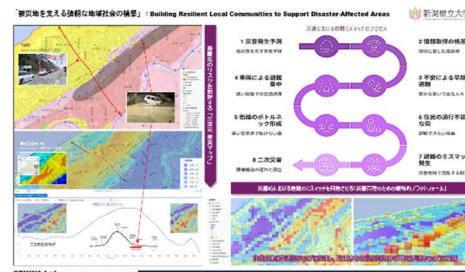
体育館での備蓄物資の確認（簡易トイレ）

#### 2) 研究成果の見える化：ポスター制作

2025年に10回目を迎える「ぼうさいこくたい」は、「語り合い 支えあい～新潟でオールジャパンで進める防災・減災～」をテーマに、災害を経験した人々が集まり災害を振り返る場と機会を提供する。本イベントの趣旨に応えるべく、西区（能登半島地震で深刻な液状化が発生した地域）を対象に、「車の渋滞で避難できずパニックが発生」というリスク分析を行った。避難情報が届かない、避難先が分からない、移動が集中して混乱する——こうした情報の非対称性がどの段階で生じるかを整理し、災害における避難ミスマッチのプロセスとして可視化するため、ArcGISを用いたプラットフォームを構築した。



ぼうさい国体 2025 in 新潟への出展



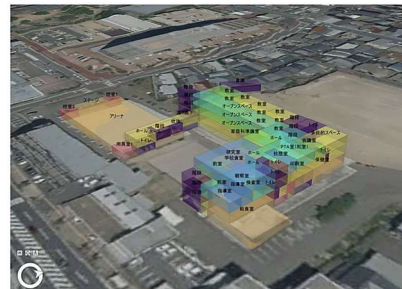
災害における避難ミスマッチのプロセス

#### 3) 研究成果の共有：チラシ制作（配布用）

「ぼうさいこくたい 2025 in 新潟」における参加者の意見をもとに、内閣府「令和7年度コミュニティ防災教育推進事業」における「防災ワークショップ」や「避難所開設・運営ゲーム」などの実証イベントの研究成果をもとに、住民参加型の避難マニュアル「ファーストミッションボックス」を作成した。



避難所開設・運営ゲーム



避難施設の収容状況を確認するダッシュボード